塩ビと環境のメールマガジン VEC
No. 817
発行年月日：２０２６／２／５

今週のメニュー

■トピックス
◇APVN 会議（台北）

■随想
◇知ってそうで知らない芸能界の話　①

平　一暁

■トピックス

◇APVN 会議（台北）

アジア地域における塩ビの環境課題などについて情報交換を行う一般社団法人 APVN（Asia Pacific Vinyl Network）の会合が、11 月 18 日、台湾・台北のホテル、ILLUME TAIPEI にて開催されました。

本稿では、各国のプレゼンテーションから特に興味深かった内容を紹介するとともに、翌 19 日に実施された Formosa Mailiao Complex の工場見学の様子、そして台北訪問時の印象についてもお伝えします。

APVN は、アジア地域における塩ビ関連情報の普及を目的に、1999 年に塩ビ工業・環境協会（VEC）の呼びかけにより設立された組織です。アジア太平洋地域の塩ビ関連企業や団体がメンバーとなり、環境問題を通じて塩ビに関する正しい情報の発信・共有を行っています（日本からは VEC が参加）。

今回で通算 30 回目となる会合では、各国における塩ビを取り巻く最新の状況や政策動向、リサイクル・環境対応の取り組みなどが報告されました。主なトピックスは以下の通りです。

- **●日本**：窓枠のリサイクル、PVC Award 2025、国内プラスチックリサイクルの概況
- **●韓国**：改訂 PVC 床材工業規格の発効（フタル酸エステル類可塑剤の規制強化）、PVC 食品ラップ包装への規制強化の動き
- **●ASEAN 地域**：
  - **・タイ**：PVC 医療廃棄物リサイクルの取り組みに 40 以上の病院が参加、拡大中
    PVC 圧力継手は非鉛化が義務化予定、非圧力系継手は 2026 年に検討開始
  - **・インドネシア**：使用済み PVC のマテリアルフローを更新
  - **・フィリピン**：EPR 導入を評価中。2025 年 6 月より回収・リサイクル強化の新政策を策定
- **●インド**：都市化によるインフラ需要の高まりを背景に、国内需要が年率 6～7%で成長中
- **●パキスタン**：ショールームを開設し、PVC 製品の利点や持続可能性に関する正しい情報を発信

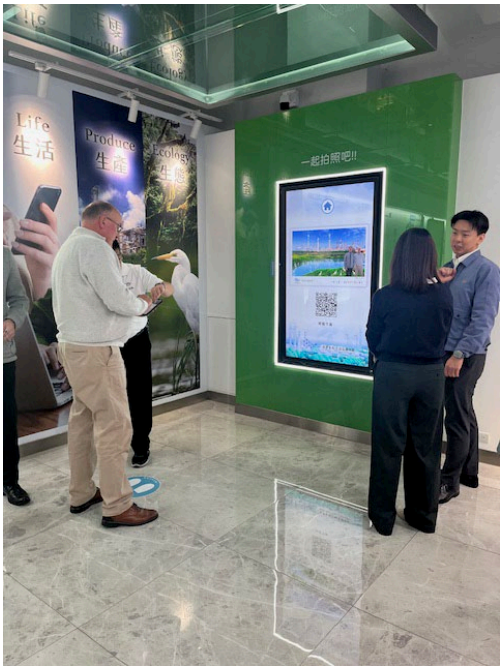
●**オーストラリア**：医療用 PVC のリサイクルプログラム（PSP）を推進、参加病院も増加。使い捨てプラスチックに対する規制も強化

●**台湾**：Mailiao 工場における PVC 粉塵排出の改善事例を紹介

Formosa Plastics Group・Mailiao 工場を見学

総会の翌日には、Formosa Plastics Group の Mailiao 工場を訪問しました。台北からバスで 3 時間以上かかる道のりで、台湾北部から南部へと移動するにつれ、都会的な風景は次第に農園地帯へと変わっていきます。途中、農業用水池に群がる無数の渡り鳥が、白い塊となって浅黄色の風景に浮かぶ様子が印象的でした。

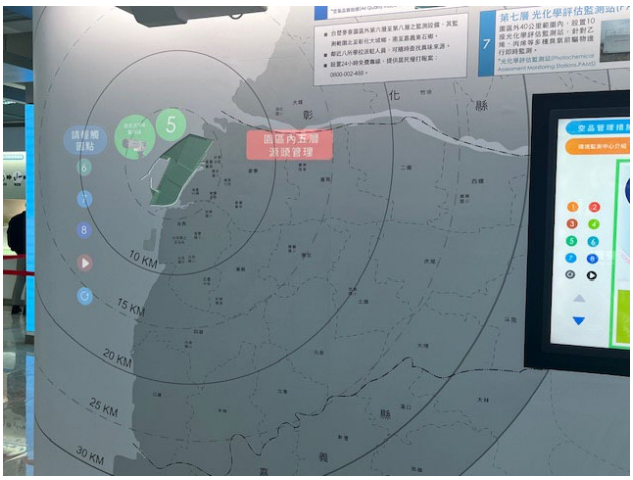
見学は、工場の概要を紹介する映像から始まりました。8km×4km という広大な敷地を埋め立てて造成された工業区のスケールには、まず圧倒されます。その広さは、台湾全体の地図を見てもその形がはっきりと確認できるほどです。



続いて展示室では、製品展示とともに環境への取り組みが紹介されました。特に、いくつかの環境監視データがリアルタイムで政府および地域住民に公開されている点は、透明性の高さとして印象に残りました。

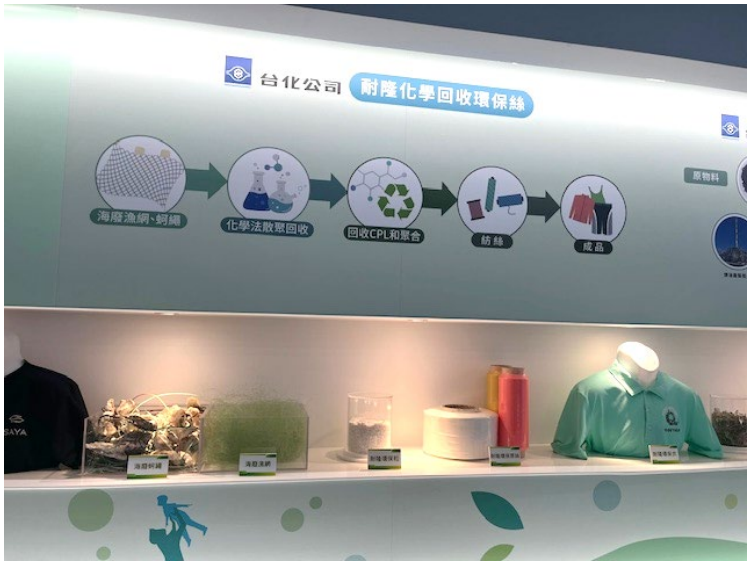
その後はバスに乗り込み、ガイドの案内のもと工場内を見学。広大な敷地内では、すれ違う車両や人影もなく、入出荷動線と分離されていることもありますが、何よりその広さを実感する時間となりました。

ガイドの方によると、この地域は海に面しており風が強いため、樹木の育成が難しかったそうです。それでも、防風や従業員のストレス緩和を目的に、早い段階から植樹に取り組んできたとのことでした。



４０km 範囲の大気品質を監視、公開

また、総会でも報告されたPVC粉塵排出の改善について、現地で実際に確認することができました。見学中、粉などは一切見られず、設備の手入れも行き届いており、丁寧な管理体制がうかがえました。



漁網のケミカルリサイクルについての展示物

なお、工場は主要都市から離れているため、外部技術者のための宿泊施設も併設されています。そこで昼食をいただいた際には、今年はグループ全体で運動会が開催され、海外工場の従業員も集まって盛大に行われたという話を伺いました。こうした社内イベントからも、企業文化の一端を垣間見ることができ、印象深いエピソードとなりました。

台北での印象

今回の訪問でまず驚いたのは、松山空港から会場ホテルまで徒歩で移動できたことでした。日本ではなかなか経験のないことで、小さなキャリーバッグを引きながら、街の風景をじっくりと眺めることができました。日本と似ているようで、どこか異なる街並み。その違いを肌で感じながら歩く時間は、現地の空気を味わう貴重なひとときとなりました。

台北のランドマーク的建物（ホテル）

もう一つ印象的だったのは、食事の量の多さです。どの料理も美味しく、もてなしの心が伝わってくるようでした。会議や見学の合間にいただいた食事も含め、台北での滞在は、五感に残る体験となりました。（土谷）

小野専務理事と筆者

■随想

◇知ってそうで知らない芸能界の話　①

平　一暁

前回、２２年間在籍していた防蟻会社を退職したご報告と、実はその前の職歴は芸能界でマネージャーをしていました、という話を書いたら、編集部さんから「次回からぜひ芸能界のお話を！」と、たってのご要望があり（笑）、シロアリの話から装いも新たに芸能界の話を綴らせて頂きますネ。まぁ、VEC さんとはかけ離れたネタですが、よろしかったらお付き合い下さい。

とは言え、ワタシが２～３０歳代の頃の話ですヨ。エンタメの世界から離れ、もう２０年以上も経ってしまいました･･･汗 新卒入社の会社を１年で退職し、入社したのが谷村新司さんのプライベートオフィス。以降、加藤登紀子さん、中島啓江さん、GAO さん、岸田智史（現、岸田敏志）さん、森山良子さん、マイク眞木さん、玉置浩二さん、薬師丸ひろ子さん、斉藤慶子さんといった方々とお仕事をさせて頂きました。世にあまり名前が出ていない人や、一時しかお仕事をしていない人などを合わせれば、マネージャーとして関わったアーティストの方々は２０数名という所でしょうか･･･。

ではまずは、NHK の「紅白歌合戦」の話でもしてみましょうかネ･･･。言わずと知れた大晦日の生放送の歌番組。未だに出場が決定すると歌手のみなさんは喜ぶし、初出場は？誰が落選？今年のサプライズは？と芸能マスコミのネタにもなります。でもネ、だからと言ってこの番組、ギャラが高い訳ではないのですヨ。NHK の基準をもとに設定された通常の歌番組の出演料程度。ここぞとばかりに豪華絢爛な衣装や、バックバンドが勢ぞろいなんて演出をしようものなら、全部それは出演者側の持ち出し。基本的には出演時の出費でみな大赤字なのですが、ソコは名誉なことだし、注目は集まるし、翌年に向けての宣伝効果やコンサートツアーの動員のコトも踏まえ、みな喜んで出演してしまうのデス。ワタシが子供の頃は、紅白に出場したら「表３年裏７年」と言われていたそうです。特に歌謡曲や演歌の世界で言われていたようですが、紅白で１曲歌えば、その曲で太平洋側の都市を歌い継いで３年、その後は日本海側のイベントやキャバレーなどを巡って７年、計１０年は食っていけるというコトらしいですが、とても今では考えられませんよネ･･･笑

今はどうだかわかりませんが、当時は紅白絡みの拘束時間も半端なかったですヨ。まずは１２月に入ると、白組、紅組それぞれでキャプテンとの面談。昔はどちらにもキャプテンがいましたよネ。「今年はどのような１年でしたか？」というキャプテンからの質問に対してアレコレ答えるのですが、この返答を元に歌う前のキャプテンの送り出しコメントを NHK スタッフが作成するので、結構みなさん必死に答えます･･･笑 欲張りな

人は、１年の自分の活動をより良く言ってもらいたいので、つい実績をさらに盛って話し､時間はオーバー気味･･･汗 面談スケジュールは何かと押したものです｡別日にはNHK内のスタジオで、歌う曲のリハーサル。コレ、NHK のスタッフさんも同席します。単に曲の練習だけでなく、スタッフさんのポイントはコノ曲にどれだけの時間を消費するのかを正確に把握するコト｡長時間の生放送とはいえ､１分１秒にしのぎを削るのが紅白。「このフレーズは削って！」「もっとテンポを速めてよ！」と、時間を切り詰めたいスタッフに対し、少しでも曲を聴かせたい歌手側との攻防は凄まじいですヨ。忙しい年末なのに揉めてなかなか決着がつかず、このリハを複数日取られてしまうなんて方もいましたヨ･･･汗 でも揉めると翌年の選出に影響するのでは･･･、との懸念から、大抵は出演者側が折れたものですけどネ･･･笑

さらに出番に沿って部分リハにも参加しなければなりません。ただ持ち歌を歌うだけではないのが紅白。〇〇さんのバックで踊る、××さんの歌う前に応援コメントする、△△特集のメドレーでココの部分を歌えなど、場面ごとにホント細かい合わせがあるのです。少しでも出番を増やしたいと思うと、その分、拘束時間も増えてしまい、当日を迎えるまでにやらなければならない事も盛りだくさん。その年、売れた人ほど引っ張りだこで、可哀想なくらいでした。

で、当日の３１日。我々、マネージャー陣は楽屋の場所取り合戦です。あれだけの出演者がいるので、北島三郎さんなどよっぽどの大御所２～３名以外は、どんなに有名で売れていようとも、大部屋楽屋。広い部屋の中でも鏡があって、椅子に座れて、ロッカーがあり、出入り口に近いなんて場所が人気です。ある年の大晦日、ワタシは楽屋の場所取りで朝８時前に楽屋入り。絶対に一番乗りだと思っていたら、大部屋楽屋からギターの音が･･･汗 部屋に入ると、なんと鳥羽一郎さんご本人がギターを弾いている！しかも楽屋内のいい場所にはあちこちに荷物が置かれていて･･･。当時の演歌系の男性陣は、毎年交代制でご本人たちが楽屋の場所取りをしていたのだとか･･･笑 その年の当番はたまたま鳥羽さんで、ワタシは鳥羽さんの早出に負けてしまったのでした･･･泣

大晦日もヒマではなくて、午前１０時過ぎから本番さながらの通しリハ。どうしても参加できない人は代役が立つものの、演奏はもちろん、会話内の冗談やボケもキッチリ行い、時計と睨めっこしながらタイムスケジュールが順調か否かで一喜一憂。夕方に休憩が入って、いざナマ本番という流れ。当日は、まったく同じ内容の生番組を２本行うという感じ。一言一句、すべてが台本にセリフとして書かれており、アドリブを組み込もうものなら､どんなに高名な方でも絞殺されるのでは･･･と思うくらいスタッフに睨まれたり･･･汗 本番中は舞台袖や楽屋通路も常にバタバタしていて、ステージ上の転換など秒単位の切り替えに緊張感満載で、別にワタシは出演する訳でもないのに精神的にやたらと疲れた番組でした･･･笑 一方で歌手のみなさんは意外にも、かなり勝敗には拘っていたように見えました。勝てば喜び、負ければ悔しがり、子供のように無邪気に感情を出している人が多かった気がします。

ナマ本番が終了して、「ゆく年くる年」で除夜の鐘が鳴るころ、番組打上げの館内放送が。０時１５分過ぎだったか３０分からだったか NHK１階の大食堂で懇親会が始まる

のですが、当時、会を仕切っていたのは常連の演歌系男性陣。しっかりと舞台ができていて、お酒が入りつつ、初出場の人を舞台に呼び上げ、マイク片手に歌手同士でインタビューしていたり･･･。一方で、次の生番組や年越しライブに出演する方々はそそくさと移動･･･笑 谷村さんの事務所にいた時は、この後ご自宅で１年のお疲れ様会。それもお開きになってタクシーで帰宅途中、首都高速道路から初日の出を見て「年が明けたんだなぁ・・・」と感じたものです。それこそ当時はコタツで年越しそばを食べるような、一般的な年末年始は過ごせなかったですヨ･･･笑

■関連リンク

- メールマガジンバックナンバー
- メールマガジン登録
- メールマガジン解除

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

VINYL ENVIRONMENTAL COUNCIL
VEC 塩ビ工業・環境協会

■東京都中央区新川 1-4-1
■TEL 03-3297-5601　■FAX 03-3297-5783
■URL https://www.vec.gr.jp　■E-MAIL info@vec.gr.jp